

環境報告書 2022 年度

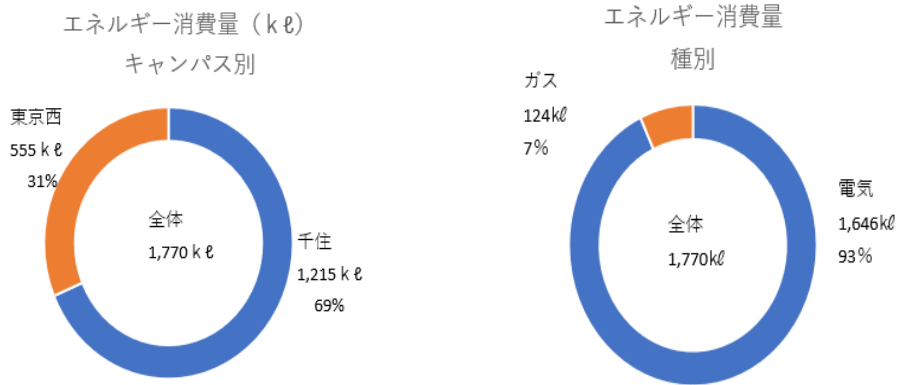
◆環境方針

本学は、「生命・環境」「医療」「教育」の三つをキーワードとして先端科学技術の教育・研究を推進し、21世紀の世界の持続的発展に貢献することを使命としている。環境問題が本学の教育・研究の課題の重要な一つであることから、環境への負荷の少ない、自然と調和したキャンパスの実現に努力すべきことは本学としての当然の責務であると考えます。

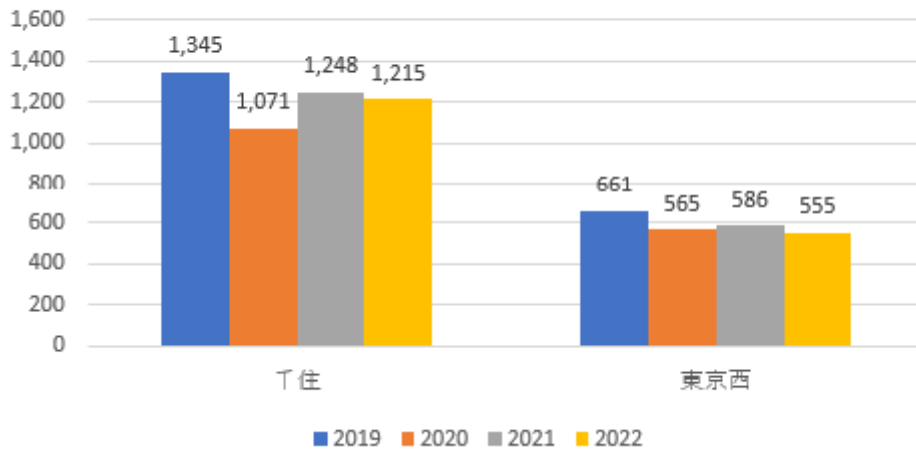
このため、本学は、全学的に環境マネジメントシステム（EMS）を構築し、全学を挙げた継続的努力によりエコ・キャンパスの実現を期するとともに、以下の活動を通じて、地球環境の保全・改善に貢献することを目指す。

1. 教育活動、啓発活動を通じて地球環境の保全・改善に貢献するとともに、本学の教職員、学生、関係のある業者その他キャンパス内の全ての者に「環境を守る」という目的意識を持つよう求める。
2. 教育・研究等の諸活動において、環境に関連する法令、学内規則等を順守する。
3. 省資源・省エネルギー、化学物質の安全管理に取組み環境への負荷を低減するよう努める。
4. 環境目的及び目標を設けてその実現を図り、定期的に見直し環境マネジメントシステムの継続的改善に努める。

◆2022 年度エネルギー消費量 (INPUT)



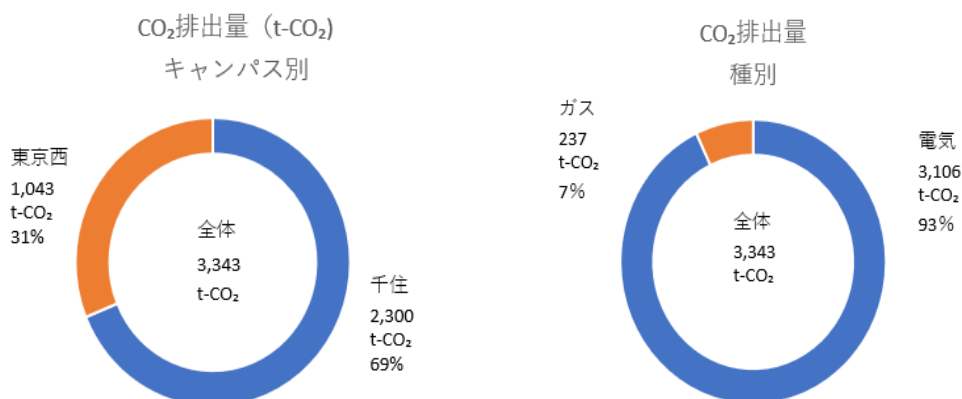
エネルギー消費量年度比較



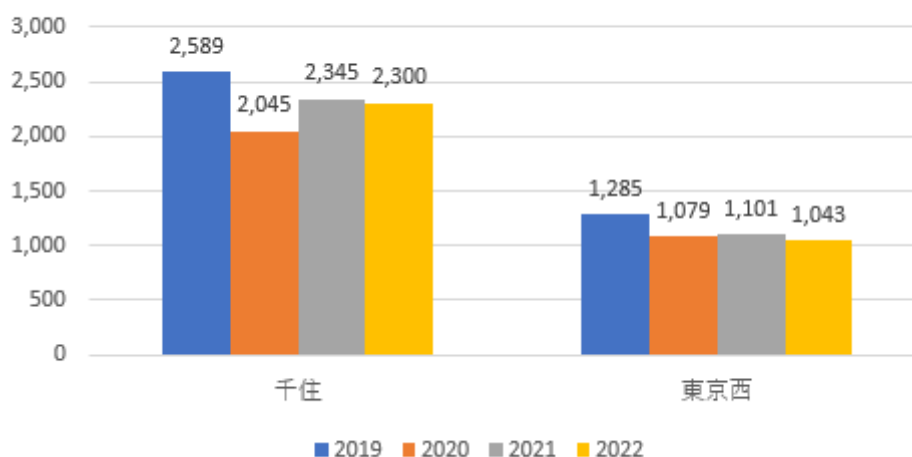
2022 年度はほぼ全ての授業を対面形式で実施し、換気など依然影響はあるもののコロナ以前の様式を取り戻しつつあり平年の状況に近づく状況となった。2022 年度エネルギー消費量は両キャンパス合わせ 1,770kℓ に上り、2021 年度と比べると 3.4%減となりコロナ以前の 2019 年度と比べても 11.3%の減少となった。

エネルギーの種類別にみると、電気が全体の 93%、残りの 7%をガスが占めている。また、キャンパス別に消費量をみると、千住キャンパスが全体の 69%、東京西キャンパスが 31%という内訳となっており、昨年度とほとんど変わらない。

◆2022 年度排出量 (OUTPUT)



CO₂排出量年度比較



2022 年度の CO₂ 排出量は、3,343t-CO₂ でした。コロナウィルスの影響を受けた 2021 年度と比較しても 2.6% 減、コロナ以前の 2019 年度と比較すると 13.6% の減少となっている。

排出量の種類別にみると、電気が全体の 93%、残りの 7% をガスが占めている。また、キャンパス別にみると、千住キャンパスが全体の 69%、ついで東京西キャンパスが 31% という内訳となっている。

◆再生可能エネルギー発電量

本学では、再生可能エネルギーの利用目的で、千住キャンパス 7 号館の屋上に太陽光パネルを設置している。2021 年 3 月に太陽光パネルの修繕工事が実施され、正常に発電ができるようになり、2022 年度は約 4.7 万 kW の発電ができている。

◆環境教育

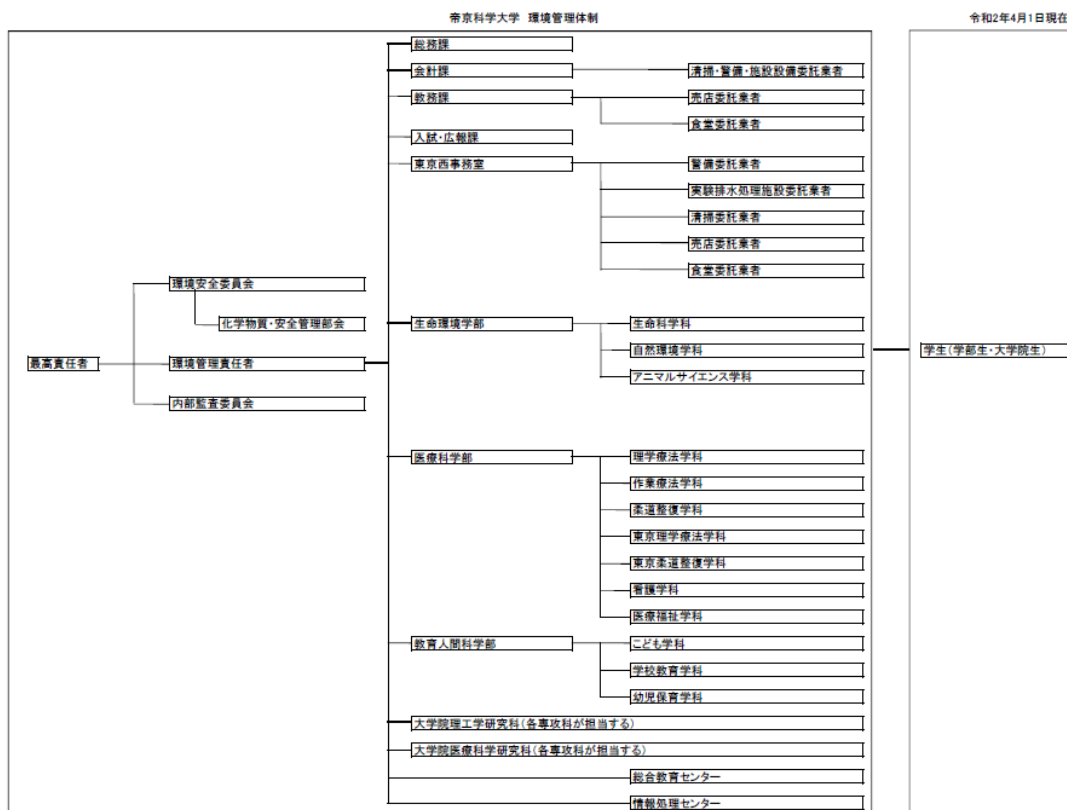
1年次については、新入生オリエンテーションにおいて初めての環境教育として、本学のEMS活動の経緯、EMS活動の内容、EMS活動の重要性、学生に望むことなどについて実施し、2年次以降については、各学科のオリエンテーションにおいて、本学の環境方針、目的・目標、EMS活動の取組みなどについて実施をしている。



【環境アクション5カ条】

1. 不要な照明やOA機器の電源を切ろう
2. 過度な冷暖房を控えよう
3. 節水を心がけよう
4. ゴミの分別廃棄を徹底しよう
5. 駐車時のアイドリングストップを心がけよう

◆内部監査結果の報告



本学では、環境に関連する法令順守状況、化学物質・高圧ガスの保管状況、環境教育及び省資源・省エネルギーの推進状況に関する報告書の提出を各部門に義務付けて、第三者の視点から評価を行う内部監査委員会を設けて評価を行っている。

1. 内部監査実施状況

2022年度の内部監査が2月～3月に実施され、各部署が本学のマニュアルに沿って活動したことを確認した。

2. 環境に関する法令順守状況

必要とされるすべての部門で適用される法令の洗い出しが行われ、順守されていたことを確認した。

3. 化学物質・高圧ガスの保管状況

化学物質保管調査評価表及び高圧ガス保管調査評価表が、必要とされるすべての部門から提出され、保管状況に問題がないことを確認した。

4. 省資源・省エネルギーの状況

(1) エネルギー消費量について

千住キャンパス、東京西キャンパスともに、目標を達成できていることを確認した。

(2) CO₂排出量について

千住キャンパス、東京西キャンパスともに、目標を達成できていることを確認した。

5. 環境教育訓練の実施状況

関係するすべての部署で一般教育が実施されていることを確認した。

◆次年度の目標

2023年度の目標として、エネルギーの使用の合理化等に関する法律に基づき、本学においてのエネルギー消費量及びCO₂排出量を前年度の目標値から1%削減をした値を目標とする。前年度の目標値から1%削減をした値をエネルギー消費量1,752kℓ、CO₂排出量を3,310t-CO₂と決めました。引き続きEMS、環境教育の実施により、環境を守る意識を高め、目標達成及び環境保全・改善に努める。